

## 二兎を追う振りをする者は二兎も得ず

～ 言い訳をしているうちに全てのものが通り過ぎていく ～

「二兎を追う者は一兎も得ず」、二羽の兎を同時に捕まえようとする者は、結局は一羽も捕まえられないということで、二つの物事を求めてどちらも失敗したり、中途半端に終わってしまうという意味である。また、一つの物事に集中せず、あちこちに気が向くことの戒めに使うことも多い。

この冬、文武両道を否定する意見を聞くことがあった。

東大の野球部が六大学野球で勝てないことなどの例をあげて、「より本気で何かを目指すなら、何か一つに絞らないと成就しない。」という意見だ。そして、文武両道は所詮中途半端だというのだ。本校では文武両道を校是としているが、文武両道を掲げる高校は全国にとっても多い。

一面的に見れば一理ある。二つのことに費やしている時間を、一つのことに使う方が効率的だからだ。しかし、我々が言うところの文武両道は、文武の両道に励むということであり、何事にも一生懸命取り組むということである。結果として両方の道で良い結果を出せばすばらしいことだが、両道で好結果を出すことが目的の文武両道ではないと思っている。

元旦に行われた実業団のニューイヤー駅伝ではトヨタ自動車優勝した。続く二日、三日の箱根駅伝では青山学院大学が優勝した。彼らは働きながら、大学で学びながら、駅伝やマラソンの練習を行っている。確かに一時的にはどちらかに力の入れようが偏るだろうが、走っていないときは立派な社会人であり大学生だ。彼らが駅伝やマラソンの練習に費やしていた時間と気持ちを仕事に傾注したとき、おそらくそれは大きな力になる。部活動を最後まで頑張った生徒は受験でも成果を出すと言われるが、それと同じことだ。

二兎を追う者は、それが強欲でなければむしろ賞賛に値する。

二兎を追う振りをする者がいる。勉強で思うように成果が上がらない。原因は本気で取り組んでいないことであり、自分でもそれは良くわかっている。そんな生徒は多いが、ほとんどは自分で自分を戒め、前向きになろうと努力している。しかし一方で、担任には「部活動があつて勉強に十分な時間が取れない。疲れてすぐに眠くなる。」と言い、部活動顧問には「勉強が大変で、勉強時間確保のために十分に練習ができない。」とか言っている生徒はいないか。学校では家の手伝いが大変と言い、家では学校の勉強が大変だから手伝いできないと言う、そんな生徒はいないか。

二兎どころではなく、我々は日常的に多くのことを並行して行っている。何兎も追いながら、そのバランスの中で生活している。そのような生活の中で何かに集中的に取り組みたい場合、何からやめるかである。真っ先に手伝いや家族との会話の時間を削り、次に勉強時間を削る。そして睡眠時間を削って、ゲームやスマホの時間を確保してはいないか。何かを成就させるためには、何かを我慢しなくてははいけないと良く言われるが、その順番を間違えると成功はしない。

二兎を追う振りとい我慢の順番を間違えることが自分への甘えから来ている、本当は本人もわかっているはずだ。「すべき時にすべきことをする」今一度、自分に言い聞かせよう。

三年生諸君にはセンター試験が一週間後に迫ってきました。この時期は誰でもあせりと不安を感じています。あせりと不安を勉強をしたくないことの言い訳に使ってははいけません。体調を崩さないようにしながら気持ちを落ち着けて、ぎりぎりまで努力を積み重ねましょう。

そして試験当日、時間いっぱい最後まで粘って「その1点をけずりだせ」。